

主な出来事

【内政】

- ボツワナ政府, リステリア菌による食中毒を注意喚起
- ケディキルウェ前副大統領, ボツワナ・オープン大学の学長に就任
- カーマ大統領, 囚人に恩赦

【外政】

- ラマポーザ大統領, ボツワナを訪問
- 南アで日アフリカ官民経済フォーラム開催を予定
- カーマ大統領, 密猟を助長しているとトランプ米政権を非難

【経済】

- デビアス社, 第2期ダイヤモンド原石販売会で昨年と同程度の売上を記録
- 中国企業によるインターチェンジの完工

【文化】

- 日本, ボツワナ柔道連盟に柔道着を供与
- 日本, ボツワナ空手協会の道場拡張を支援

【内政】

○ 野党連合, 国家石油基金横領事件で政府関係者を訴える意向

野党連合「民主改革のためのアンブレラ(UDC)」はケツァベ法務長官に対し, 国家石油基金横領事件で業務上過失の罪が疑われるコシ謀報・安全保障局(DIS)局長, オバケン鉱物資源・環境保全技術・エネルギー安全保障省次官他5名を裁判に訴える意向である旨通知した。同通知は, 基金が政府機関への石油安定供給のために設立されているにもかかわらず密猟対策などの本来とは異なる目的で使用された形跡があることを指摘し, 横領された2億5000万プラの即時返却を要求している。(3日:ウィークエンド・ポスト紙)

○ カーマ大統領, マシシ副大統領, 公金スキャンダルに関与か

国家石油基金2億5000万プラの横領事件で逮捕された実業家セレツェ氏とその同僚は, 公判中にカーマ大統領, マシシ副大統領, オロベン・青少年地位向上スポーツ文化開発大臣, その他与党議員の名前を上げ, 事件への関与を訴えた。汚職・経済犯罪担当局(DCEC)は, マシシ副大統領, ダダBDP会計局長等への事情聴取を行った旨, 現在も捜査を継続している旨明らかにした。(9日:ボツワナ・ガーディアン紙)

○ ボツワナ政府, リステリア菌による食中毒を注意喚起

リステリア菌による感染症の流行が2017年に南アで確認されていたが, 原因となる食品が南ア企業製造の食肉加工品であることが判明した。ボツワナ保健省は, 同製品が国内にも流通しているとして回収を決定。国民に対し同製品を摂取しないよう注意を呼びかけた。(9日:ボツワナ・ガ

ーディアン紙)

○ **モチュディ東地区の国会議員補欠選挙, 4月21日の実施が決定**

9日, カーマ大統領は詔書を発出し, モチュディ東地区の国会議員補欠選挙を4月21日に実施する旨独立選挙委員会(IEC)に命じた(当館注:同地区選出のアイザック・デービス国会議員は, 1月に使用人により殺害されていた)。(9日:デイリー・ニュース紙)

○ **マエレ大臣宅ゴミ箱の中から5万プラを押収**

10日, 汚職・経済犯罪担当局(DCEC)はマエレ国土・水・衛生サービス大臣が所有する邸宅のゴミ箱の中からビニール袋に包まれた現金5万プラを発見し押収した。同宅には同大臣が2009年まで居住。転居後は賃貸物件となり, 2016年以降は空き家となっていた。同大臣は, 現金は仕組まれたものだと主張している。(12日:モニター紙)

○ **ケディキルウェ前副大統領, ボツワナ・オープン大学の学長に就任**

12日, ケディキルウェ前副大統領はボツワナ・オープン大学の学長に就任した。就任式にはカーマ大統領, マシシ副大統領, モハエ前大統領が参列, それぞれボツワナ農業大学, ボツワナ大学, ボツワナ国際科学技術大学の学長を務めている。(13日:デイリー・ニュース紙)

○ **英国労働党, ボツワナVISA発給問題を懸念**

英国労働党のオサマー議員は, 英国弁護士ゴードン・ベネット氏に対するVISA発給がボツワナ政府により拒否されていることに懸念を示した。英国人はボツワナへの入国にVISAを必要としないが, 近年, ボツワナ政府は政府とバサルワ族(ブッシュマン)との対立問題に関与する個人・組織に対して入国制限をかけてきた。バサルワ族の顧問弁護士であるベネット氏は過去数年に渡りボツワナへの入国が拒否されている。(18日:サンデー・スタンダード紙)

○ **カーマ大統領, 囚人に恩赦**

19日, 大統領退任を目前にボツワナ刑務所を訪れたカーマ大統領は, 再犯歴のない578名の囚人に対し恩赦を与える旨発表した。同席したカティ司法国防大臣は, 恩赦の対象となった囚人は, 刑が一部軽減されるか, 直ちに釈放される旨述べた。(20日:デイリー・ニュース紙)

○ **与党BDP, モシュパ・ラレケト区地方議会議員補欠選挙で勝利**

24日, モシュパ・ラレケト区で地方議会議員補欠選挙が実施され, 与党ボツワナ民主党(BDP)のモトラジョエ氏が339票を獲得し勝利した(UDC候補:233票, AP候補:45票)。同地区の議席は, 1月にラカラ議員が急死したことで空席となっていた。(26日:デイリー・ニュース紙)

【外交】

○ ラマポーザ大統領, ボツワナを訪問

3日, ラマポーザ南ア大統領はボツワナを訪問しカーマ大統領と会談した。両大統領は二国間関係の他, SADC地域における平和と安全について協議した。また, SADC議長を務めるラマポーザ大統領は, SADC事務局を訪れ, タックスSADC事務局長とSADCの活動状況に関し協議した。(5日:デイリー・ニュース紙)

○ カーマ大統領, 外交団ブリーフで死刑制度の継続を明言

13日, カーマ大統領は外交団に対するブリーフの中で, ボツワナの死刑制度は, 国際法に則り, 徹底した司法手続きに基づく公正な裁判で, 最も重い罪と判断が下された場合のみに適用され, 今後もボツワナ政府は死刑制度の廃止又は執行猶予の適用を認めない旨述べた。この他, 同大統領は, 国際司法裁判所 (ICC) に対する支持や, 紛争解決に無力な国連安保理への懸念を述べた。(15日:デイリー・ニュース紙)

○ ボツワナで貧困撲滅会議が開催

20, 21日, ボツワナ政府はUNDPの支援で貧困撲滅会議を首都マプトで開催。会議には世界各国の関係者が集まり, 貧困撲滅と包括的成長について話し合われた。開会の辞はカーマ大統領が, 閉会の辞はマシシ副大統領が務めた他, オープニング・セッションではドウヴルー・サセックス大学教授による基調講演が行われた。(16日:デイリー・ニュース紙)

○ 南アで日アフリカ官民経済フォーラム開催を予定

13日, 日本大使公邸で開催された日本大使館・JOGMEC開設10周年記念式典において, 竹田日本大使は, 日アフリカ官民経済フォーラムが5月に南アで開催される旨発表した。同大使は本フォーラムの開催により, 日・アフリカ企業による民間主導の経済成長が促進される旨述べた。(16日:デイリー・ニュース紙)

○ カーマ大統領, 密猟を助長しているとトランプ米政権を非難

カーマ大統領は, カサネで開催された反密猟を訴える会合「ジャイアント・クラブ・サミット」に出席し, トランプ米政権が密猟を助長していると非難した。トランプ政権はアフリカ6カ国(ボツワナ, ナミビア, 南ア, タンザニア, ジンバブエ, ザンビア)を対象にエレファント・トロフィーに対する輸入許可証発給を検討していた(当館注:エレファント・トロフィーとは, 娯楽目的で狩猟した象を記念として持ち帰るその牙や剥製等)。(16日:BBCニュースウェブサイト, 19日:モニター紙)

○ モレミ在独ボツワナ大使, 死去

外務国際協力省はモレミ駐独ボツワナ大使が死去したことを発表し, 同氏に哀悼の意を捧げた。同氏は, 南部アフリカ関税同盟(SACU)の初代事務局長(2004-2014), 通産省次官(1993

ー2003)等を歴任した後、2013年に在独ボツワナ大使館が開設したことを受け、初代駐独ボツワナ大使を務めていた。(29日:デイリー・ニュース紙)

【経済】

○ ボツワナの主要経済指標

1) 経済成長率(出典:ボツワナ統計局)

2017年第4四半期の経済成長率は、前期比3.4%(2017年第3四半期の経済成長率は、前期比4.7%)。

2) インフレ率(出典:ボツワナ銀行)

2018年2月は3.2%(1月は3.1%)。

3) 為替レート(出典:First National Bank of Botswana)

2018年3月29日

1プラ=0.102米ドル

1プラ=1.188南ア・ランド

1プラ=10.96円

2018年2月28日

1プラ=0.102米ドル

1プラ=1.181南ア・ランド

1プラ=11.01円

○ ダイヤモンド産業

1) デビアス社、第2期ダイヤモンド原石販売会で昨年と同程度の売上を記録

デビアス社の2018年第2期におけるダイヤモンド原石の売上は5億5500万米ドルを記録し、同売上は昨年同時期の売上5億5300万米ドルに比べわずかに増加した。クリーバー・デビアス社CEOは、第2期のダイヤモンド原石販売会における売上がダイヤモンド原石の良好な需要の継続を示しており、中国新正月における消費者需要へのポジティブな兆候である旨発言した。(9日:メヒ紙)

2) デブスワナ社のジュワネン鉱山及びオラパ鉱山の採掘可能期間が伸びる見込み

27日、デブスワナ社(当館注:ボツワナ政府とデビアス社の合併企業)は関係者会合を開催した。同社によると、ジュワネン鉱山における第9次拡張区域(カット9)の事業実施可能性調査はかなり進んでおり、同鉱山で2019年まで可能とされていたダイヤモンド採掘は、2035年まで可能となる見通し。また、同社はオラパのレタカネ鉱山では選鉱くず処理工場の操業を開始し、2043年まで操業する見込み。(30日:ガーディアン紙)

○ エネルギー・資源

1) モルプレ A 石炭火力発電所改修90%完了, 6月から完全に機能

ケボナン鉱物資源・環境保全技術・エネルギー安全保障大臣によると, モルプレ A 石炭火力発電所の改修は現時点で90%完了しており, 6月には完全に機能するようになる見通し。最大出力は116MWでボツワナ国内の需要の22%に相当する。(9日:メヒ紙)

2) ボツワナ鉄道, Minergy社の鉄道計画を承認する見込み

ボツワナ鉄道は, 鉱業企業であるMinergy社が求めているボツワナの石炭生産地と南アフリカの鉄道を結ぶ鉄道計画を承認する予定。同計画が承認されれば, 南アフリカの港を通じ石炭を容易に輸出できるようになる。(17日:ウイークエンド・ポスト紙)

○ カズングラ橋建設計画の視察

10日, ボツワナ, ザンビア及びジンバブエの3大統領は, カズングラ橋建設計画の視察を行った。モカイラ・ボツワナ運輸通信大臣は, 3カ国の大統領から, 現在の事業の速やかな完了とボツワナとの国境側にジンバブエのOSBP施設を設置する可能性の確認を求められており, ジンバブエOSBP施設は現在の事業の第2フェーズになるだろうと述べた。(12日:デイリー・ニュース紙)

○ 中国企業によるインターチェンジの完工

中国企業China Railway Seventh Group社(中鉄七局集团有限公司)は, 通称スパゲッティーとして知られるフランシスタウン・タパマ・インターチェンジの建設を予算内かつ予定通りに完成させた。10日に行われた完工式典にはカーマ大統領, モカイラ運輸通信大臣, ザオ中国大使, ムゼイラ・フランシスタウン市長等が出席した。インターチェンジの建設はボツワナで初めてであり, トノタ・フランシスタウン二車線回廊計画の最も重要な部分である。インターチェンジの完成には3年かかり, ひと月あたり500名以上を雇用した。(18日:パトリオット紙)

【文化】

○ 日本, ボツワナ空手協会の道場拡張を支援

2月28日, 日本大使館においてボツワナ空手協会の道場拡張を支援する贈与契約(84,969米ドル)に係る署名式が開催された。同署名式の中で竹田日本大使は, 「本計画は草の根文化無償資金協力のスキームで実施されるものであり, 日本政府が推進するスポーツ・フォー・トゥモローの一環である。ボツワナ人空手家に2020年の東京オリンピックに出場してもらいたい。」と発言した。(2日:ガーディアン紙, 4日:サンデー・スタンダード紙)

○ 日本, ボツワナ柔道連盟に柔道着を供与

日本大使館を通じてボツワナ柔道連盟に対して柔道着50着が供与された。2日に行われた引き

渡し式典で竹田日本大使は、供与された柔道着により、技術のみならず柔道競技そのものが促進されることを期待する旨述べた。セロ・ボツワナ柔道家は、日本に対する感謝を述べると共に、柔道を通じて日本とボツワナの絆を強めた恩師(故井坪氏:元青年海外協力隊員)に感謝の意を捧げた。(当館注:2月25日～3月8日、日本政府による派遣で須貝元柔道世界王者及び蹴揚柔道専門家がボツワナを訪問し現地柔道家に対する指導を行った。供与された柔道着はNPO法人柔道教育ソリダリティにより寄贈されたもの。)(5日:デイリー・ニュース紙)